①のニュースができるまでについては、「おはよう日本」を例に紹介されました。それによると、前日の午後 6 時に編集長のもと翌朝の打ち合わせが行われ、中継車も生放送の下準備に出かけ、取材や翌日の段取りを入念に行っていました。

そして、当日になると、午前 1 時に編集責任者が映像チェックを行うほか、制作記者はニュース原稿をわかりやすくまとめるなど、私たちが就寝している間も着々と本番に向けた作業が行われていたのでした。午前 3 時にはキャスターが化粧を行い、その後ニュースチェックをし、午前 4 時には全体打ち合わせの場において原稿と照らし合わせながら映像チェックが行われ、生中継現場においてもリハーサルが行われていました。また、キャスターは、原稿の下読みを行い、本番に臨むのでした。

本番では、キャスター以外にもカメラマンやフロア・ディレクター、副調整室では、ディレクター・テクニカルディレクター、タイムキーパーなど多くの人が放送に携わっていました。ディレクターは最後に、朝のニュースを通じて、世界の最新の動きを伝えることとその日の一日がわかるようにすることに心がけていると話していました。

視聴者である私たちが毎日最新の情報を入手できる背景には、このような報道に携わる人々の並々ならぬ努力が存在することを再認識させられました。

また、NHK では、毎日深夜に、地震津波訓練を実施しており、常時災害速報を行える態勢を整えていたのでした。